



ニュースレター

SDM NEWS



「女性の生き方を考えるワークショップ」で発表する参加者

10

2012年 月号

行事予定

2012年11月4日(日) 13:00～17:00
SDM研究科+コクヨ+co-lab×FabLab Shibuya主催
慶應SDM連続宇宙公開講座第5回
「宇宙を使う:宇宙イノベーションによる未来デザイン」
@渋谷ヒカリエ8/(はち) COURT
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/11/04-192320.html>

要事前登録 有料

2012年11月6日(火) 19:00～21:30
慶應SDM連続宇宙公開講座第6回
「宙(そら)のがっこう」-星出宇宙飛行士とのリアルタイム交信イベントライブ中継-
@日吉キャンパス協生館 藤原洋記念ホール
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/11/06-163909.html>

要事前登録 無料

2012年11月7日(水) 18:30～20:30
SDM研究科講演会およびSDM研究科説明会
@三田キャンパス南校舎7階 473教室
講師:ヒジノケン-L (SDM研究科准教授)
演題:良い政治とは?:政局、政策、制度から統治機構のシステム・デザインへ
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/11/07-200519.html>

要事前登録 無料

2012年11月13日(火) 13:00～16:30
慶應SDM公開講座
“Space Applications” 「宇宙の利用法」
@日吉キャンパス協生館
講師:Heinz Stoewer氏
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/11/13-172935.html>

要事前登録 無料

2012年11月13日(火) 9:30～12:00
慶應SDM マネジメントデザインセンター開設記念シンポジウム
@日吉キャンパス協生館 藤原洋記念ホール
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/11/13-175227.html>

要事前登録 無料

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。
http://www.keio.ac.jp/ja/event/201210/201210_index.html

通算47号 2012年10月発行



専任教員からのメッセージ

人と、システムと、境界。



システムは何かしらの構造を持ち、そして何かしらの要求や制約に基づく振る舞いをします。ほとんどの場合、そこには、人が介在します。“システム”という、何か冷たいイメージを持たれる方がいるかも知れませんが、確かに旧来の考え方では、そう感じるのも無理はありません。しかながら、システムは私たち“人”と関わりを持ちます。ですから、システムのデザインに際しては、人が介在することを前提にする必要があります。

人の考えや振る舞いを考慮することは極めて難しいのですが、私たちはシステムには必ず人が介在することを肝に銘じて、システムのデザインとマネジメントに取り組まなければなりません。このためには、システムがどのように使われるかを考えることが最も重要です。そして、それは一人の専門家が考えるよりも、他のさまざまな領域のプロと一緒に考えるのが良いでしょう。

そこでは、プロがお互いに“境界”を越えようとしなければなりませんし、考えていることを頭から取り出して、図的に示してみることも重要です。慶應SDMでは、そうしたことを実践できる場を提供しています。

SDM研究科教授 西村秀和

最近のニュース

TOPIC

1 平成24年度大学院9月学位授与式、および平成24年度9月入学式の報告



清家塾長から学位記を受けとる穂刈正樹君

学位授与式

平成24年度大学院9月学位授与式が、9月18日(火) 午前に三田キャンパス西校舎ホールで行われ、SDM研究科からは、修士(システムエンジニアリング学)3名、修士(システムデザイン・マネジメント学)3名(計6名)が学位を受けた。

清家篤塾長から各研究科の修了者の代表に学位記が授与され、SDM研究科からは穂刈正樹君が授与代表となった。また、清家塾長による式辞の後、佐々木正一教授が教職員を代表して祝辞を述べた。式典後、SDM研究科による修了式を北館大会議室にて行い、穂刈正樹君に最優秀賞が授与された。



入学のスピーチを行う熊迪君

入学式

平成24年度9月入学式が、9月19日(水) 午前に三田キャンパス西校舎ホールにて行われた。新入生を代表してSDM研究科の中国からの留学生・熊迪君による入学の辞があった。SDM研究科は、新たに修士課程9名、後期博士課程4名の入学者を迎えた。また、同日午後、SDMでは日吉キャンパスにて、ガイダンスを行い、カリキュラムや教員の紹介などを行った。



講義の様子

「災害と危機管理」をテーマに

第3回目となる「医療・医薬研究開発システム論」集中講義は2012年9月4日から9月9日の6日間、久能祐子特別招聘教授指導のもとワシントンDCに隣接するポトマックを中心に開催された。担当教員の神武直彦准教授のほか、佐藤みずほ君(博士課程3年)、渡辺今日子君(修士課程2年)、伊藤雅彦君(修士課程2年)、長沢安希子君(修士課程1年)、平田大輔君(修士課程1年)の5名、それに加え医学研究科から原田成君(博士課程3年)、薬学研究科から伊東敏君(修士課程2年)の合計7名の学生がこの講義に参加した。本講義は一昨年から3年計画で始まり、日米両国における医

療・医薬を取り巻く問題について、1年目は主に「市場性」に焦点を当て、2年目は「公共性、社会性」の側面から検証した。本年は3年目の集大成として国家の安全保障にまで視点を広げ「災害と危機管理」をテーマに講義が行われた。米国の危機管理システムおよびその問題点を学び、改めて日本を振り返ることにより、昨年3月に発生した東日本大震災の対応に対する問題意識を新たなものにした。集中講義は盛り沢山のスケジュールであったが基礎から応用へとプログラムされた講義の中で研究者や実務者と議論を重ねることで学生は理解を深めることができた。講義概要および参加

者が得た主な気づきと知見2点について以下に記述する。

講義概要:

米国における様々な危機管理システムの紹介

米国ビジネスの危機管理に始まり、地方自治体、パンデミック、医療、エネルギーなど多様な視点からの危機管理、またそのデザインについての講義が行われた。講師陣は実務経験豊富な政府機関の関係者から大学研究者に至るまで幅広く、演習を含めたインタラクティブな講義となった。

「想定外」に対応するための「All HAZARDS APPROACH」

米国の危機管理標準として採用されているインシデント・コマンド・システムについての基礎から応用までを学習した。講師としてFEMAで長年危機管理を担当したリオ・ボスナー氏をはじめジョージワシントン大学で災害時の危機管理を研究するグレッグ・シャオ氏が招かれた。いずれも本システムを構築した第一人者である。米国では、予測困難な大災害に対応するために「ALL HAZARDS」計画、つまり災害に共通して必要な「FUNCTIONAL

APPROACH」を採用しており、日本のような地震、洪水、土砂災害など事態別に計画された災害対応計画には限界があることを学んだ。さらに、このシステムに完成ではなく平素から地域住民やNPOなどへの教育訓練を含めたシステムの改善を行っているという。講義では日米比較や新しい視点での問題解決方法について議論が交わされ、日本の危機管理システムの強み弱みを考えさせられるものとなった。



活発な議論を重ねる受講生たち

システムデザイン・マネジメントの重要性

前述の災害対応システムを体系立てたのは、ジョージワシントン大学のシステムエンジニアリング学科であった。災害時の危機管理システムは、政治的・経済的な分析、警察・消防などの救援組織からの分析、その他、行政や地域住民、メディアやインフラ各社、さらにはNPOやボランティアの存在など、まさにSDM的な視点が必要とされる分野である。講義終了後も、SDM研究科および医学・薬学研究科の学生と議論を重ねることで、システムデザイン・マネジメントの重要性を再認識した。

日本を離れ米国で学ぶことは、翻って日本

ワシントンDCの日本大使館に訪問し藤崎一郎特命全権大使と意見交換する機会を頂いたことも視野を広げる貴重な経験であった。今回もSDM研究科のみならず医学・薬学研究科学生との交流は互いに新たな発見の連続であり、研究活動の交流を深め合うこととなった。

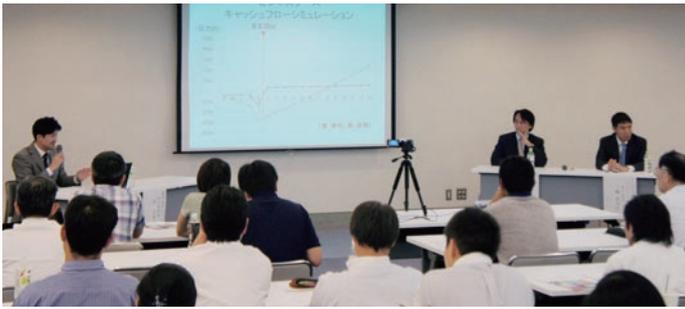
このプログラムにあたってご尽力頂いた久能祐子特別招聘教授、上野隆司博士、現地TAの深見真希博士、コーディネーターの平井玲子さんおよびご支援頂いた方々、そして前野隆司教授、手嶋龍一教授、神武直彦准教授、学生部の方々に深く感謝し、受講生として研究成果に反映できるよう努力する所存である。



参加者、講師、教員の集合写真

(修士課程2年伊藤雅彦、他参加者一同)

TOPIC 3 連続宇宙公開講座第4回「宇宙に投資する：宇宙ビジネスのシステムデザイン」



講座後半のパネルの様子



湊宣明特任准教授

2012年9月12日(水) 19:00～20:30、毎日ホール(東京・竹橋)において、湊宣明特任准教授が講師を務め、連続宇宙公開講座「宇宙に投資する：宇宙ビジネスのシステムデザイン」が開催された。第4回目となる今回のテーマは、

宇宙とビジネス。宇宙開発をビジネスの観点から分析し、魅力的な投資対象としてデザインするためにはどうすればよいかを皆で考えることが目的である。導入講義では、宇宙1.0(国家の威信をかけた宇宙開発)、宇宙2.0(官民協

働による宇宙開発)、宇宙3.0(民間がリスクマネーを用いて行う宇宙開発)の3段階に分けて宇宙開発のパラダイムシフトを定義し、次に、それぞれの遷移を実現させるための主要ドライバーについて解説が行われた。最終的に宇宙3.0を目指すために必要な要素は、1) 小型化、2) 多様化、3) 情報化の3点であるとの結論である。講座後半では元パークレググローバルインベスターズ日本法人取締役の福原正大氏、およびデロイト・トーマツ・コンサルティングの三輪耕司パートナーをパネリストにお招きし、ベンチャーファンドやインフラファンドの基本的枠組等も含め、様々な投資スキームの宇宙への適用可能性が議論された。会場には120名を超える受講者が集まり、本テーマに対する関心の高さを伺い知ることができた。

TOPIC 4 春山教授らの視覚障がい者向けの音声案内サービスの研究紹介が日経産業新聞に掲載

春山真一郎教授のグループが視覚障がい者向けの音声案内サービスを開発したことが、2012年8月31日の日経産業新聞で紹介された。このシステムは、LED照明から送信される屋内位置情報をスマートフォンで受け取り、視覚障がい者の位置と姿勢をもとに、音声で案

内をするものであるが、実験には、弱視の方、全盲の方4名に参加していただき、方向指示の音声案内がその対象物の方向からヘッドホンで聞こえて分かりやすい等のコメントをいただき、大変好評であった。このシステムは全地球測位システム(GPS)が利用しにくいショッピング

センターなどの屋内で活用されることが期待される。



TOPIC 5 中島君(博士課程3年)らの講演論文が日本機械学会技術と社会部門優秀講演論文賞に選出



写真左2番目から八木田氏、中島君、佐々木教授

2012年9月10日に開催された一般社団法人日本機械学会2012年度年次大会に

おいて、中島 円君(博士課程3年)、八木田寛之氏(非常勤講師)、佐々木正一教授がICBTT2010(イギリス・ヨーク)で発表した「System Design Approach derives a New type of Insurance」が、日本機械学会の技術と社会部門の優秀講演論文賞に選出され、表彰された。

論文内容は、製品設計に広く用いられているシステム設計の手法をサービス設計に適用したものである。研究の対象は、社会安全や

保安に関する問題提起と問題解決の提案である。具体例として、日本の深刻な社会現象である「ひきこもり」を取上げ、「KJ method」と「Pugh Selection」を用い問題設定を明らかにしている。さらに、「Scenario Graphy」を用いることによって、その解決策として導かれた「ひきこもり保険」の提案とその保険によるメンタルケアや回復プログラムの費用負担支援などの提案と検証を行っている。

TOPIC 6 公開講座「デザインと経営の未来」



グッドデザイン賞審査員でもある田子氏のプレゼンテーション

SDM研究科では2012年9月19日(水)に公開講座「デザインと経営の未来」を行った。世界的にデザイン思考と経営を統合する動きが盛んだが、日本においては事例が少ないのが現状である。

今回は先日の「インテリアライフスタイルショー2012」で「Best Design Business



橋口氏によるマネジメントプロセスの紹介

Award」を受賞し、世界的に注目を集めた鳴海製陶のOSOROプロジェクトをクリエイティブディレクターとして率いた田子學氏と、マネジメントの立場からプロジェクトを率いた橋口寛氏をお招きして、クリエイター視点とマネジメント視点それぞれから見えるデザインと経営の未来についてお話し頂いた。国内では触れ

る機会の少ないデザインと経営の統合された事例に、終了時刻を過ぎても質疑応答が終わらない盛況ぶりであった。また、参加者からは「デザイン思考とマネジメントをシステムとして構造化するSDM研究科ならではの企画である」と非常に高い評価を得た。

TOPIC 7 日本機械学会 機械力学・計測制御部門主催 講演会「Dynamic & Design Conference 2012」



ランニングの実技解説をする榎本靖士准教授(右端)と真剣に聞き入る参加者

日本機械学会 機械力学・計測制御部門が主催する講演会「Dynamic & Design Conference 2012」(実行委員長:慶應SDM西村秀和教授)

が、2012年9月18日(火)～21日(金)に日吉キャンパスにて開催された。「システムを考える。境界を越えて。」を総合テーマとするこの講演会の中で企画された市民公開講座「ランニングのバイオメカニクス～理論と実践～」と「特別講演会」を慶應SDM研究所が共催した。

「ランニングのバイオメカニクス～理論と実践～」は小池関也准教授(筑波大学体育系)の企画によるもので、19日(水)午前10時から正午までの2時間にわたり、講師の榎本靖士准教授(筑波大学体育系、日本陸連科学委員会・副委員長)の講義の後、1時間の実技解説

およびその実践が行われた。あいにく朝から雨が降りやすい天候であったが、協生館地下にあるスペースにて、講義で学んだスライドとピッチをコントロールした走り、下肢の動きとして脚のばね的作用を意識した走り、身体重心の上下動を意識した動き、そして体幹近くの筋で積極的に力を発揮する走りなどを実践した。参加した一般市民の方々には、ご自身の体でその感覚を確かめることができ、ランニングのモチベーションが高まり、効果的な走りを身につけることができた大変好評であった。



特別講演会で講演する安西祐一郎氏

続いて20日(木)に、協生館 藤原洋記念ホールにて開催された「特別講演会」では、安西祐一郎氏(日本学術振興会理事長、前慶應

義塾長)による特別講演「人間が介在するシステムのデザインとマネジメント」と、その前座的な位置づけとして、白坂成功准教授(慶應SDM)による基調講演「システム安全に向けた取り組みー「こうのとりの実例から最新の研究までー」が行われた。会場を埋め尽くした一般市民約70名を含む日本機械学会関係

者の数多くの参加者は、2時間以上にわたる講演に熱心に聴き入っていた。あらゆるシステムに、人間が関わるということは当然のことではあるが、設計者や技術者はつついこれを見落とし勝ちである。決してこれを見落としはいけないということを学ぶことができた講演会であった。

TOPIC 8 慶應イノベティブデザインスクールワークショップ「Value Identification & Modeling」開催



写真左はスタンフォード大学Kurt Beiter先生

2012年9月23日9時～17時に、慶應義塾大学SDM研究所イノベティブデザインセンターが主催し、慶應義塾大学グローバルCOEプログラム「環境共生・安全システムデザインの先導拠点」が共催した慶應イノベティブデザインスクール(KiDS)が開催された。

この日は、スタンフォード大学のKurt Beiter

先生をお招きし、「Value Identification and Modeling」と題したワークショップが行われ、約30名の受講者が熱心に英語の講義を受講した。

TOPIC 9 「女性の生き方を考えるワークショップ」開催報告



ワークショップの様子

2012年9月25日(火)午後1時～午後4時、慶應イノベティブデザインスクールの企画として「女性の生き方を考えるワークショップ」を開催した。20名を超える参加者が集まり、女性の抱える問題とその解決策について、ブレインストーミングや親和図法によって明らかにした。アンケートの結果、非常に満足度は高く、

シリーズ化して続きを行なってほしいという要望も少なくなかった。デザインプロジェクトの手法や方法論が様々な場で使えることを確認することができて非常に有意義であった。

TOPIC 10 慶應SDMのポストデザイン思考・ポストシステム思考のワークショップ

慶應義塾大学教養研究センターの主催により、慶應SDM教員によるポストデザイン思考・ポストシステム思考のワークショップが2012年9月29日(土) 16:30～19:30に日吉キャンパス・来往舎で開かれた。このワークショップは同センターの「学びの連携プロジェクト」公開セミナーの一環として、慶應SDMがデザインプロジェクトとしてこれまで研究・開発してきた「ワークショップにもとづくイノベティブなシステムデザイン・マネジメント方法論」(WISDM)を、研究科外に広く体験してもらおうもの。

ワークショップ当日は、教養研究センター所長・不破教授、同副所長・種村教授、同副所長・大出教授、日吉メディアセンター長・羽田教授、総合政策学部・飯盛准教授、同・西田講師を含む定員いっぱいの30名の参加者が、保井俊之特別招聘教授ならびに4名の慶應SDMボランティアのファシリテーションにより、「ひよらの明るい未来」をテーマにソリューションデザインを創造した。

11月3日には同じくWISDMを使い、不破所長のファシリテーション、慶應SDM有志教員の

全面協力により、文学作品の新たな解釈の方法論の可能性を探る先駆的なワークショップが同センターで開催される予定である。



ワークショップ参加者の様子



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

お知らせ 今月のラボ紹介は、お休みします。